

谷垣自由民主党幹事長との会談

さいたまクリテリウムbyツール・ド・フランス

開催に向けて国へ要望 新藤信夫

10月9日 さいたまクリテリウムbyツール・ド・フランス開催に向けて地元選出の牧原衆議院議員(自民党副幹事長)と共に自民党の谷垣第一幹事長を訪問し、大会開催に向けて国の協力をお願いしました。当大会はさいたま市の単独事業であることから国から直接的な支援を受けることは出来ませんが、自転車競技の振興や自転車通行人の拡大、駐輪場の整備等長期にわたり自転車に関する補助についてお願いしました。

谷垣幹事長は休日には自前のロードバイクで近県へ出かける程の自転車好きで、当大会についてもたいへん興味を持たれ、レースの前に行われる招待者による一般体験走行に出場する希望は持たれていたものの公務のため叶わず残念な思いをされていました。

埼玉県は自転車保有台数が全国トップで、さいたま市でも通勤・通学に多くの人が利用しています。それだけに通行人、駐輪場等は欠かせない施設であり、これらの整備に国の十分な補助が必要となっています。

第2回さいたまクリテリウム



2014さいたまクリテリウムbyツール・ド・フランス(第2回)がフランス大使館、経済産業省、官公庁等の後援により10月25日さいたま新都心で行われました。

当日は昨年と違って変わって晴天に恵まれ、スポーツ日よりの中での開催となり、またけやき広場では「さいたまるしえ」、三菱マテリアル敷地内では「サイクルフェスタ」が同時開催され、いずれも多くの来客を集めていました。今回のレースはさいたまスーパーアリーナ内を通過する3.1kmのコースで行われ、出場選手は昨年ツール・ド・フランス優勝のフルム、登り調子のキツテル、日本人選手では新城・別府など64選手が参戦しました。優勝はキツテル選手で、敢闘賞に別府選手が入りました。観客は昨年並みの約20万人と推定され、市内4箇所のパブリックビューイングと共にJスポーツ、テレビ埼玉に加えてテレビ東京も中継したこともあって大いに盛り上がった大会となりました。

今年の大会については当初予算が使える4月からの準備スタートとなり、出遅れ感があつたことから、来年度の大会準備を27年明けから始められるよう12月議会で500万円の補正予算を計上することとなりました。

明治150年記念事業の立ち上げ

明治元年、明治天皇は都を東京に遷都し、武蔵一宮氷川神社を「武蔵国の鎮守勅祭の社」と定められ氷川神社親祭の詔を発せられました。そしてこの年の10月28日には明治天皇が氷川神社に行幸、自ら祭儀を執り行われ、さらに明治3年11月1日に再びご祭親されました。

このように明治天皇がご祭親なされたのは、桓武天皇が平安遷都に当たって賀茂神社をお祀りしたことを例としたと言われており、行幸の模様を謹写した山田衛居筆の13mの長大な氷川神社行幸絵巻物は氷川神社の社宝として大切に保存されています。

明治天皇御親祭50年祭は大正6年10月28日に、100年祭は昭和42年に厳粛かつ盛大に執りおこなわれ、150年祭は平成29年となっています。

さいたま市としても行幸150年を記念し、これを模した行列や駅周辺でのイベント、商店街でのセール等を商店街連合会、観光協会と協働して実施すべく委員会を立ち上げ検討を始めています。



明治天皇行幸絵巻(部分)

官製談合・収賄容疑で市職員逮捕

10月4日、さいたま市が発注した荒川彩湖公園の遊具修繕工事で、特定の造園業者と談合を持ちかけ、動きが良く、無理のきく業者を選んで業者間で談合をさせた事件が発生。逮捕されたのは、当時、南部都市公園事務所に勤務していた田崎淳容疑者(39)で平成20年と21年の2年にわたり彩湖公園の遊具修繕工事を発注し、20年度の工事は、この公園が荒川の河川敷にあることから国土交通省荒川上流工事事務所の許可を受けて施工すべきところ、未許可のまま工事を始めたことから施工開始直後に荒川上流工事事務所から指摘を受けて中断、未完成のまま工期を迎えたため工事を偽装したものです。工事完成検査調書、支払い調書等は検査すべき上司から印鑑を預かって偽装したものとされ、現地で完成検査は行われることなく工事代金が支払われていた。また、自宅のカーポートの設置工事をこの造園業者に行わせて代金を支払っていなかったことから、収賄容疑でも再逮捕されています。このような事件が発生することは、さいたま市にとって恥ずべきことであり、市長の陳謝だけではすまされない。綱紀粛正と法令遵守の徹底を図る必要があることは言うまでもありません。

市議会としてもこの事件を重く受け止め、11月12日に議長発議により臨時議会を開いて執行部に対して緊急質問を行いました。関係書類が警察に押収されているため、大まかな答弁しか得られず、詳細については後日開催される「適正な発注制度及び人員配置に関する調査特別委員会」に委ねられることとなりました。



居酒屋、カラオケ店等の客引きを防止する条例の検討を開始

最近、県内最大の繁華街である大宮の南銀座などで居酒屋やカラオケ店への強引な客引きが目立っています。通行人の前に立ちふさがったり、つきまとったり、時にはその気が少しでも有りそうな客は腕をつかんで店に連れ込むなどの客引きが行われており、目に余るものが増えています。

埼玉県の迷惑行為防止条例では、キャバクラ等の風俗店への適応は罰金

刑まで科す内容となっているため警察官の巡視等により客引き防止が的確に実施されていますが、居酒屋やカラオケ店への適応は明確な規定がなく徹底していません。自民党さいたま市議団ではこれら迷惑行為の防止に向けて条例の設置や県条例の改正も含めて検討に入ることにしました。夜昼を問わず誰もが安心して繁華街を歩けるよう検討を進めていきます。

大宮西高 中高一貫校移行決定



さいたま市には、平成19年4月に浦和中学校を創立し、市立浦和高等学校を併設して、市立浦和中学校・高等学校が有り、市内で最初の併設型中高一貫校として中高一貫教育を推進して来ました。平成25年度(平成26年3月)には浦和中学校の2期生を含む市立浦和高等学校生が卒業を迎えました。この中高一貫教育では、中学入学時に選抜された生徒が入学したこと、市立浦和高校では市立浦和中学から上がって来た生徒と選抜で高校に入学した生徒と一緒に刺激し合って学習する等の結果、たいへん評価の高い生徒が輩出されました。

今年5月8日に、市立浦和中学校・高等学校に続く市内2番目の中高一貫校として市立大宮西高等学校を改変して併設型ではなく「6年制の中等教育学校として平成31年4月に創立・開校する。」とともに「市立大宮西高としての生徒募集を平成28年度までとする。」ことが清水市長から発表されました。突然の発表に、「大宮西高 中高一貫化」の記事は翌朝の紙面を飾り、ショックを受けた学校関係者や生徒、保護者も多く、教育委員会や議員にも多くの問い合わせがありました。

これは地元の高校の改変であり、たいへん気になる内容を含んでいることから6月議会において教育長に対し次の点について質問をしました。

- ① 中等教育学校移行を決定するまでの経緯
- ② 中等教育学校の規模について
- ③ 学校施設の改築について
- ④ 高等学校及び中等学校の生徒募集について
- ⑤ 教育の基本方針と教員の配置について
- ⑥ 歴史と伝統の継承について

以上6点について教育長の答弁は次のとおりでした。

- ① 平成24年度に作成した「市立高等学校特色ある学校づくり」の中で新たな中高一貫校の設置について検討することとし、市立浦和中学校・高等学校の成果と課題を踏まえて、5回にわたり中高一貫教育検討会議を重ねて、日本の将来を舵取りし、世界の舞台で活躍できるグローバルな人材育成のために、「新たに中高一貫校を設置することが望ましい。」との結論を得て、さらに教育委員会内部検討委員会で検討を重ね平成26年4月に正式決定した。
- ② 平成26年度末を目途に生徒規模、教室数、必要な施設等について示す。また、文化財の保護に付いても十分に配慮する。

- ③ 現校舎は平成31年には築50年を迎えることから、中等教育学校が開校するこの年には新しい校舎を整備したい。
- ④ 様々な制限・制約があり校舎建設のスケジュールの上から大宮西高等学校の生徒募集は平成28年度を最後とし、平成31年3月に最後の高等学校の生徒を送り出して、同年4月に中等教育学校の1年生を迎えることとしたい。
- ⑤ 世界の舞台で活躍するグローバル人材の育成を目的とすることから海外研修を通じて国際交流を体験することや、高校受験が無いことから中学校に当たる前期課程で高校の課程を先取りして学習出来るようにするなど、独自の教育課程を柔軟に編成出来るよう研究していく。また教員については先進的な教育実践の出来る優秀な人材の確保と養成に努める。
- ⑥ 校名等も変更になるが在校生や保護者の皆様の意見を聞く機会を設けて検討をする。また、大宮西高の資料の保管については資料室(館)を設けて中等教育学校が引き継ぐ。構内の文化財(古墳等)に付いても従来どおり大切に保存する。

再質問 平成31年3月に大宮西高等学校の3年生を送り出して、同年4月に中等教育学校の1年生を迎えるスケジュールでは、大宮西高等学校の伝統が生徒から生徒に伝わらないのではないか。中等教育学校の生徒数や施設の規模についてこれから煮詰めると言うのであれば、移行スケジュールについても再検討が可能ではないか。

教育長答弁 生徒の教育活動を確保しつつ校舎の整備を行うことは大変厳しい状況にあるが、大宮西高等学校の伝統をどう引き継ぐか、生徒や保護者の思いを受け止め、今後在校生と中等教育学校の入学生と継続性を持たせることが出来るか検討する。

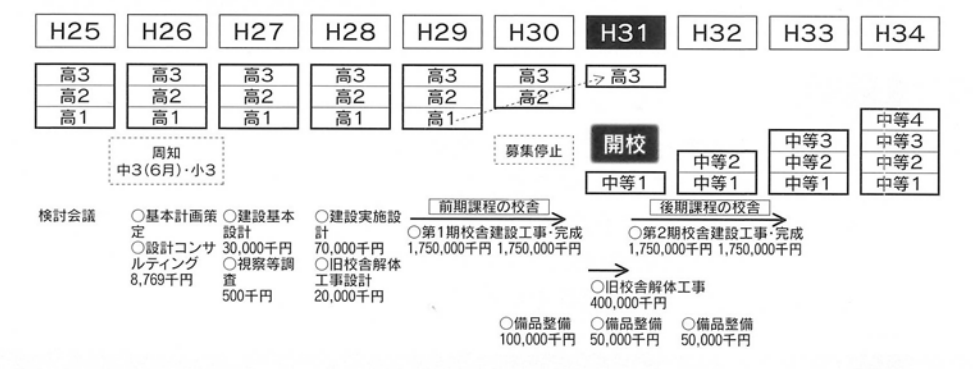
議会質問に先立つ6月10日には生徒達が「大宮西高校の歴史と伝統を引き継げるように、継続的な生徒募集を行って下さい。」と訴えて、要望書を市長と教育長に提出、その後も保護者会が開かれ、また、生徒会での話し合いやPTA会長と教育委員会との協議など続けられました。

これらの経緯をふまえて8月28日に開かれた教育委員会議では**大宮西高等学校の生徒募集を1年延長して平成29年度までとする**ことを可決。これによって平成31年度の1年間は大宮西高等学校の3年生と中等教育学校の1年生(中学1年生と同学年)同時に在籍することになります。

平成30年度募集停止の決定で来年度以降の大宮西高等学校の入学希望者が減少するのではないかと懸念が学校関係者からでていたことに配慮して来年度の入学者数を80人少ない240人にする可決しました。これにより来年度入学の1年生は1学級の人数が40人から30人に減少し小人数教育の特徴を教授することが出来ることとなります。

9月以降は大きな動きはなく大筋ではまとまった様子であるが、細かな点については今後検討する部分も多く、今後校舎の位置や教室の配置、校名、校訓、校歌、校章などについては在校生や保護者の意見を良く聞き協議を重ねる必要があります。

中等教育学校の移行スケジュール



さいたま市立大宮西高等学校 案内図

